町長コラム

町長室からこんにちは No.8

一宮町長
馬淵 昌也

最近、ポスト真実（post-truth）という言葉が話題になっています。平成28年12月14日付の東京新聞によれば、「ウソでも人びとを扇動し、あるいは人びとが扇動されてしまう政治文化の風潮を示す言葉」だそうです。要するに、事実・真実と関係なく、虚偽の情報がまかり通り、大きな社会的影響を与える現象をさす言葉のようです。もちろん、かつてもデマという言葉がすでにあるように、似たような現象はあったと思いますが、インターネット、SNSという通信手段の飛躍的発達とともに、格段に目立つようになってきたわけです。アメリカ大統領選挙時のトランプ氏の発言の中で、「虚偽」に類するものは約70％にのぼったとの報道もありますが（上記東京新聞）、それでも当選されたのですから、恐るべき状態だといえます。日本でも、事実にもとづかない言説で人びとの気持ちを自分に都合よく動かそうという事例は、中央・地方を問わず大変目立つものがあります。例えば、特定の政党や労働組合などに「抵抗勢力」としてレッテルを張り、その集団を排除すればすべてうまくゆく、と主張するたぐいの政治的言説はその最たるものでしょう。根拠のない誹謗中傷でも、言ったもの勝ちになる、というわけで、フェア・プレイの精神とは正反対の方向です。しかし、私は、問題解決の正しい方向性は、あくまで正確な事実・真実の認識のうえにしかありえないと思います。事実・真実に徹底して向き合い、その上で誠実な議論を展開してゆくことが、最良の解決につながる唯一の道だと考えます。ポスト真実の風潮にあくまで抗して、「事実・真実」の政治の重み、フェア・プレイの精神の大事さを主張してゆきたいと思っています。